

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぎ高梁(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日 ～ 令和7年9月18日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年9月4日 ～ 令和7年9月16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別や集団での支援の中で子どもたちの興味関心や特性に合わせた支援の実施。	・子どもたちの興味関心のあることや好きなことを確認しながら、得意なことを活かした支援を各職員が意識して関わっている。 ・上手く取り組めない際には、得意なことを大切にしながら、自信を持てる機会を設けている。	・特性の強みへの視点も高め、環境調整から必要な支援を保護者や関係機関と連携していく。
2	・各職員の学びの機会として法人内研修や外部研修を設け、スキルアップの充実。	・各職員が参加型の研修となるよう、グループワーク研修や職員が役割を持って発表の機会を設けている。	・具体的な意見を発言できるような安心できる環境を事業として作り、各職員が発表できる機会を多く増やしていく。
3	・保護者への申し送りにて具体的なエピソードや取り組みを丁寧に伝える意識。	・成長や変化を伝え、嬉しいことや成長を共有できる機会を大切にしている。 ・課題については次回の対応方法や要因なども含めて検討を行っている。	・保護者の意見を多く聞く機会を設け、より実生活にもつながる支援の提供を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・こどもの過ごすエリアの再構造化。	・先生と個別のワークや一人でワーク、自由遊び、小集団活動など、多くのエリアを目的とねらいを持って構造化しており、エリアのさらなる工夫や再構造化が必要である。	・こどもの人数や特性、年齢など、一人ひとりを意識しながら遊びのエリアなど再構造化を実施していく。
2	・職員が揃って情報共有する時間の確保。	・こどもが過ごす時間も長く、職員が揃って会議を行う時間の確保が持ちにくい。	・個々での連絡会なども行い、情報は社内グループウェアを活用し、共有を行っていく。 ・休憩時間後など、時間やタイミングを整理し、共有できる時間を設ける。
3	・子どもとの意思疎通がしやすい支援の検討。	・要求カードやヘルプカードなど、発信できる機会は実践しているが、色々な気持ちや思いを確認できる支援が不足している。	・表情カードや場面カードなど、思いを聞き取り、一緒に確認できる支援や配慮を実践する。